

# HiKOKI

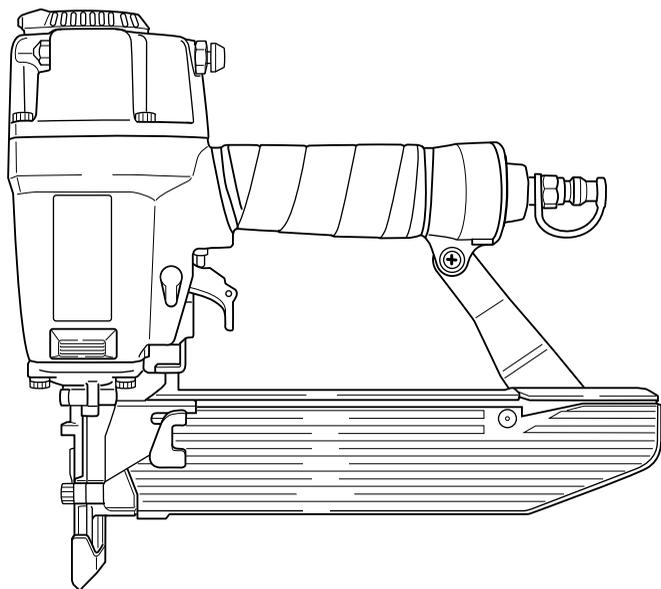
## タツカ (エアダスタ付)

### N 5008MF

### N 5008MM

## 取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

# 目 次

	ページ
タッカの安全上のご注意	2
各部の名称	8
仕様	9
ステーブルの選び方	9
標準付属品	10
別売部品	10
用途	11
作業前の準備	11
ご使用前に	12
使い方	14
保守・点検	18
エアコンプレッサと作業の速さ	21
別売部品の使い方	21
使用潤滑油	22
ご修理のときは	裏表紙

---

## **⚠警告**、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

# タツカの安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ⚠警告

### 作業前

- ① 保護メガネを使用してください。**
  - 作業中は、保護メガネを使用してください。
  - まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。ステーブルを連結している接着剤や打ち損じのステーブルが目にあたると、けがの原因になります。
- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。**

本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。**
- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。**
- ⑤ きちんとした服装で作業してください。**
- ⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。**
  - ねじ類の締付けがゆるんでいないこと。
  - 損傷したり、はずれている部品がないこと。
  - さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
  - プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

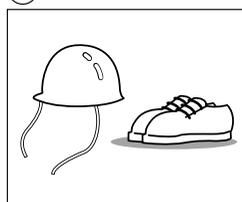
①



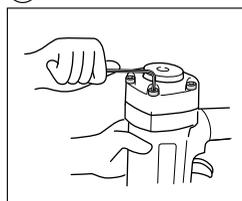
②



④



⑥

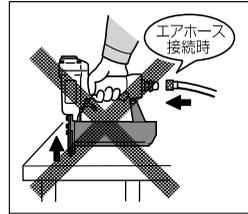


## ⚠警告

### ⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。  
誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

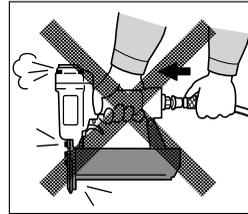
⑦



### ⑧ ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。  
異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑧



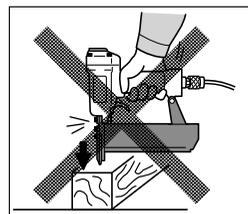
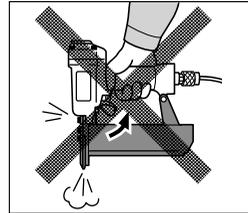
### ⑨ 使用前に安全装置の確認をしてください。

本機は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、ステープルが発射されない構造になっています。

ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、ステープルフィーダを後方に引いて次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。  
異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑨



### ⑩ 用途にあった作業に使用してください。

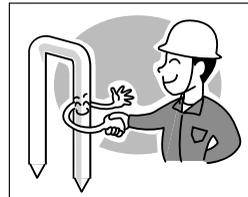
本機は、木材または類似の材料へのステープル打ち作業を目的とした工具です。

指定された用途以外には使用しないでください。

### ⑪ 指定のステープルを使用してください。

指定されたステープル以外のものを使用すると、けがや本機の故障の原因になるので使用しないでください。

⑪



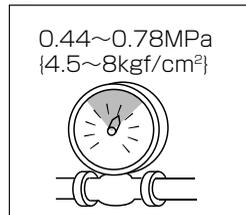
## ⚠警告

- ⑫ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、タッカ本体やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
  - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
- ⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
  - 作業場は十分に明るくしてください。暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

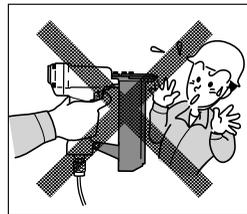
### 作業中

- ① 指定の空気圧力で使用してください。
- 本機の使用空気圧力範囲は 0.44 ~ 0.78 MPa {4.5 ~ 8 kgf/cm<sup>2</sup>} です。この範囲内で使用してください。0.78 MPa {8 kgf/cm<sup>2</sup>} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。
- 人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ③ 射出口付近に顔や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 誤ってステープルが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、本機やエアコンプレッサを使用しないでください。
  - ステープルを打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

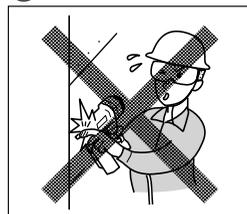
①



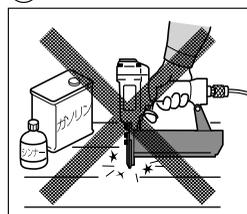
②



③



④

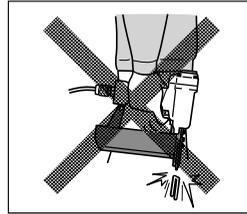


## ⚠警告

### ⑤ ステープルを打ち込むとき以外は、引金に指を掛けないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- ステープルを装てんするときや調整などをするとき、引金に指を掛けないでください。誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑤



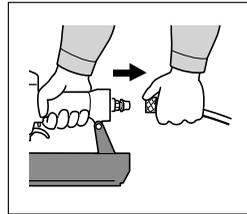
### ⑥ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
  - 人体にノーズ（吹き出し口）を向けない。
  - プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

### ⑦ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
  - 点検・修理・調整、ステープル詰まりの直しなどの場合。
  - ステープルを装てんする場合。
  - タッカを移動する際や手渡しする場合。
- 誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑦



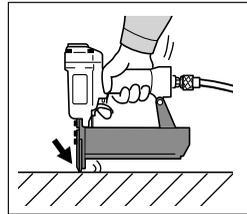
### ⑧ 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

### ⑨ ステープルを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。ステープルがはね返ったり、本機が反発することもあり、けがの原因になります。

⑨



### ⑩ 作業中はまわりの人に注意してください。

- ステープルを連結している接着剤や打ち損じたステープルが当たる恐れがあり、けがの原因になります。

## ⚠警告

- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。

機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

### ⑪ 薄い板や木材の端にステープルを打たないでください。

薄い板に打つとステープルが突き抜けたり、木材の角に打つとステープルがそれたりして、けがの原因になります。

### ⑫ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、本機がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

### ⑬ 壁の両側から同時にステープル打ち作業をしないでください。

打ったステープルが突き抜けたり、壁ぎわのステープルがそれたりして、けがの原因になります。

### ⑭ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。

転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、ステープル打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

けがの原因になります。

### ⑮ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。

不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。

- 屋根などの斜面でステープルを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。

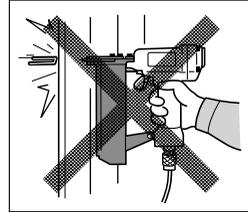
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。

- 床などの水平面でステープルを打つときは、前進しながら作業してください。

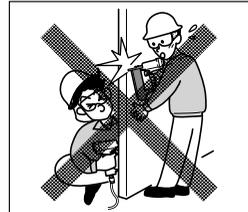
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。

- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

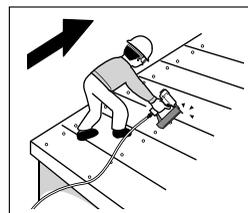
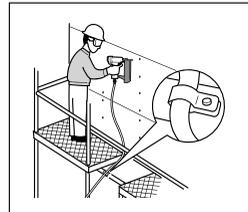
⑪



⑬



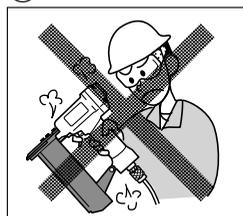
⑮



## ⚠警告

- ⑩ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- タッカを使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
  - 常識を働かせてください。
  - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑪ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。
- ⑫ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
- 内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑬ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑭



## 作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、ステープルを全部抜き取ってください。
- ステープルを残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。
- ② 本機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当たたまま放置しないでください。
- ③ タッカは、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、タッカは常に手入れをし、清潔に保ってください。
  - 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

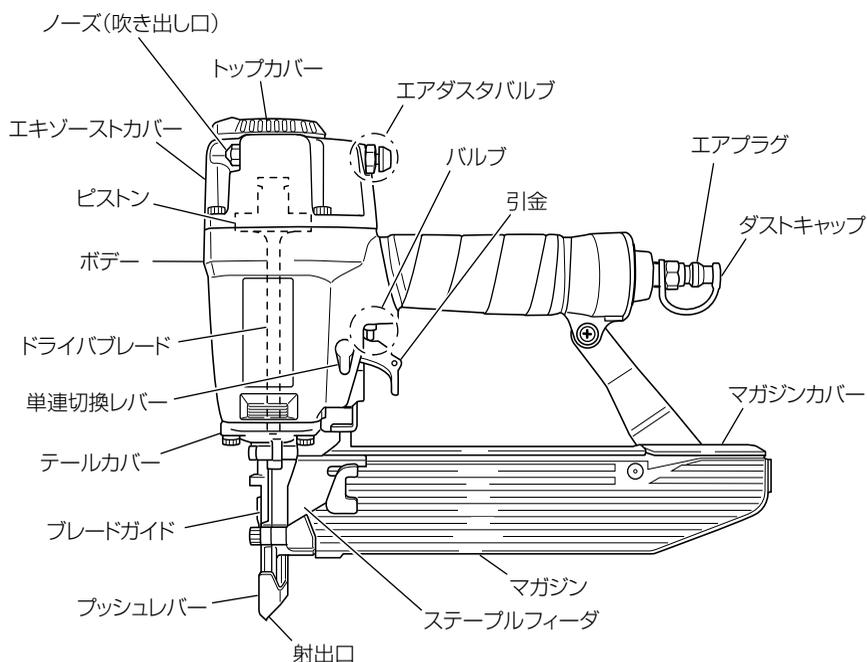
①



## ⚠警告

- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。  
安全性が損なわれ、けがの原因になります。
- ⑥ タッカの修理は、専門店で依頼してください。
  - 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

## 各部の名称



N 5008MF

図 1

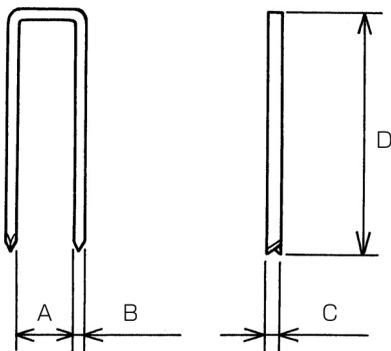
# 仕 様

項目 \ 形式	N 5008MF	N 5008MM
動力形式	ピストン往復動式	
使用空気圧力	0.44 ~ 0.78 MPa {4.5 ~ 8 kgf/cm <sup>2</sup> }	
能力 (使用ステーブル)	B 0832F2、B 0838F2、B 0845F2、B 0850F2	
ステーブルの装てん数	120本(2連+20本)	60本(1連+10本)
製品の大きさ (長さ×高さ×幅)	323 mm × 269 mm × 82 mm	289 mm × 269 mm × 82 mm
製品質量	1.9 kg	
ステーブル送り方式	うず巻ばね式	
使用エアホース(内径)	6 mm 以上	

## ステーブルの選び方

本機は、下の表に示すステーブルが使用できます。

ステーブルは50本が1連に接着されています。寸法はおおよその値を示しております。ステーブルは本タッカお買い上げの販売店でお求めください。



(寸法単位：mm)

ステーブル	A	B	C	D
B 0832 F2	8.3	1.4	1.65	32
B 0838 F2				38
B 0845 F2				45
B 0850 F2				50

## 標準付属品

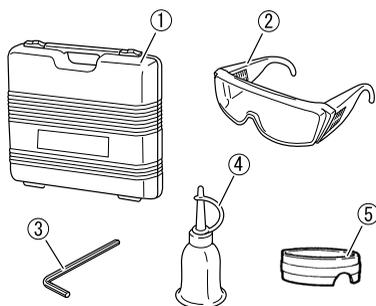


図 2

- ① ケース ..... 1 個
- ② 保護メガネ ..... 1 個
- ③ 六角棒スパナ 5 mm ..... 1 個  
(本体に取付けてあります。)
- ④ 油さし ..... 1 個
- ⑤ プロテクタ ..... 1 個  
(18 ページの 6 項参照)

## 別売部品

本タッカお買い上げの販売店でお求めください。

### 1. プッシュレバー (C) 組 (平打ち用)

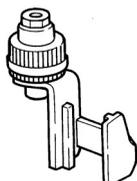


図 3-1

取付け方は、21 ページの「別売部品の使い方」をご参照ください。

### 2. フロアガイドセット

(本体に取付けて、約 45° の角度でのステーブル打ち込み作業用。)

取付け方は、部品に付いている説明書をご参照ください。

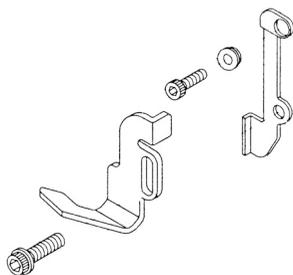
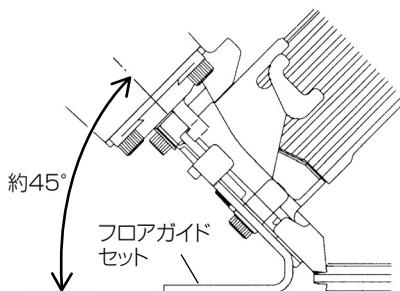


図 3-2



〔使用例〕

# 用 途

○フローリング施工

**注** ●堅い材料（単層むく材）に打ち込むと、材料により入らない場合や割れる場合がありますので、試し打ちして確認の上、ご使用ください。

## 作業前の準備

### ○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

### 1. エアホースの準備……………

本機の使用エアホース内径は6 mm以上です。エアホースをエアコンプレッサ側にしっかり接続してください。

**注** ●エアホースの長さは、30 m以内のものをお使いください。エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。

### 2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する……………

水や油が内部にたまりますと、さびが発生したり故障の原因になります。使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

### 3. ステープルの準備……………

ステープル打ち作業の用途にあったステープルを準備してください。

（9ページ参照）

### 4. 安全点検……………

#### 警告

- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類の締付けがゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

18ページの「保守・点検」を参照し、必ず行ってください。

## ご使用前に

### ⚠警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

### 1. 空気圧力の確認……………

### ⚠警告

- 本機の使用空気圧力の範囲は 0.44 ~ 0.78 MPa {4.5 ~ 8 kgf/cm<sup>2</sup>} です。この範囲内で使用してください。

空気圧力は、ステーブル打ち込み能力（ステーブルの長さ、木材の堅さなど）に合わせて、0.44 ~ 0.78 MPa {4.5 ~ 8 kgf/cm<sup>2</sup>} の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 0.44 MPa {4.5 kgf/cm<sup>2</sup>} 未満または 0.78 MPa {8 kgf/cm<sup>2</sup>} を超えますと本機の性能、寿命、安全に影響しますので、エアコンプレッサの空気圧力、容量、配管に十分考慮が必要です。

### 2. 給油について……………

本機のピストン摺動部は特殊材料の採用により、使用前後に毎日給油する必要はありません。しかし、圧縮空気中のごみが摺動部にたまると動作が鈍くなります。油をさすと、たまっただごみが除去されるとともに本機の寿命向上、性能維持に効果がありますので月に 1 ~ 2 回程度の給油をお勧めします。給油は 2 mL {2 cc} 程度の油をエアホース取付口から入れてください。

油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を 22 ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

### 3. エアホースを接続する……………

### ⚠警告

- 本機にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。
- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

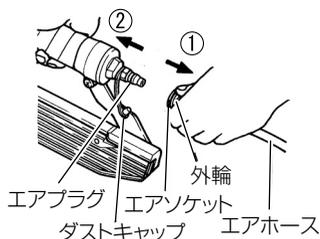


図 4

本機にエアホースを接続する場合はエアプラグからダストキャップをはずし、図 4 のように、①エアソケットの外輪を引き、②エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

（手をはなすと外輪は戻ります。）

#### 4. ステープルを入れる…………

### ⚠ 警告

- ステープルを装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

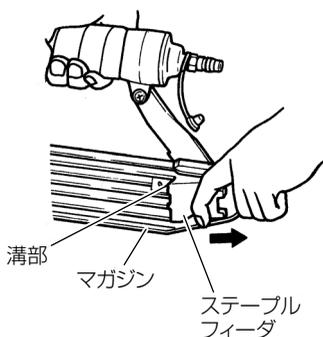


図 5

- ステープルフィーダを後方に引いて、マガジンの溝部に確実に引っ掛けます。(図5)

#### N 5008MF の場合

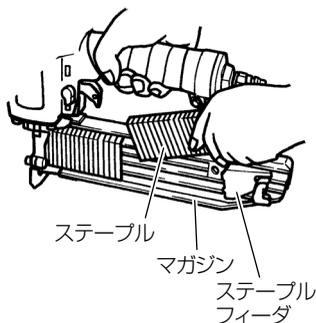


図 6

- ステープルをマガジンの上方から1連ずつ入れ、手で前方へ送ります。(図6)  
N 5008MF は、2 連 + 20 本 (120 本) 入ります。  
N 5008MM は、1 連 + 10 本 (60 本) 入ります。
- ステープルフィーダを後方に引いて、マガジンの溝部からはずし、ステープルを押しように静かに戻します。

- 注** •ステープルフィーダは急にはなすと、急激に戻り、ステープルが変形したり、ばらばらになったりして、ステープルづまりの原因になります。ステープルフィーダは必ず静かに戻してください。

# 使 方

## ⚠ 警告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 一度打ったステーブルの上に、再度ステーブルを打つことはしないでください。

**注** • 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。

## 1. ステーブルの打ち方……………

本機は、打ち込み対象物によって、効果的な使い方ができるように単連切換え機構を装備しています。

本機はフローリング(床張り)作業用の製品です。狙い打ちを確実にするため、単発打ちに切り替えての使用をお勧めします。

### (1) 単発打ち

単連切換えレバーを上向きの単発位置にセットしてください。

## ⚠ 注意

- 単発打ちでも、引金は素早く、確実に引いてください。引金を素早く、確実に引かないと、打ち込み時の反動で連続打ちすることがあります。

単発打ちは、仕上げを重視する場合や狙った場所にステーブルを打つ場合に使用します。打ち込む所にプッシュレバーを押し当て、引金を引く動作で、ステーブルを一本ずつ打つことができます。(図8)

**注** • 狙った所にステーブルを打つ場合は、単発打ちで作業してください。

フローリング作業はフロア材の浮上りを防止するため、本体の打ち込み角度は約45°にし、プッシュレバーの先端凸部をフロア材のさね(凹部)に確実に当てて打ち込むようにしてください。(図8)



図 7

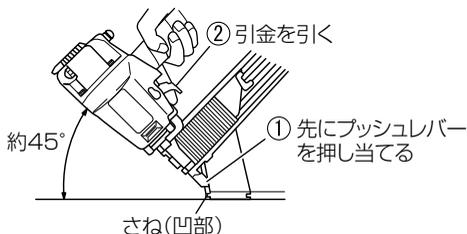


図 8

## (2) 連続打ち

単連切換レバーを下向きの連続位置にセットしてください。(図9)

連続打ちは、はじめに引金を引いておき、その後、ステーブルを打つ所に射出口を「トン・トン・トン」と押し当てれば、連続的に作業ができます。

(図10)

プッシュレバーを別売部品のプッシュレバー(C)組に交換すると、平打ちする場合に便利です。



図 9

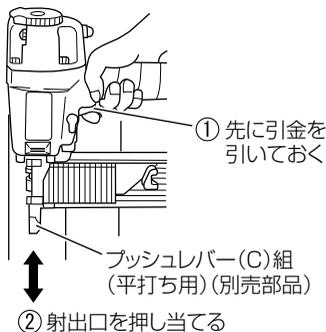


図 10

## ○ 安全装置について

本機は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、ステーブルが発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ステーブルは発射しません。これは、ステーブルを打つとき以外に誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、ステーブルが発射されることを防ぐためです。

## (3) 作業中断時、使用後のご注意

### ⚠ 警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、ステーブルを全部抜き取ってください。

**注** • 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。

## 2. 打ち込み深さの調整……………

### 警告

- アジャスタの調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。
- 射出口を下に向け、人体や手・足などがいないことを確認してください。

#### (1) アジャスタの調整 (図 11)

- 本機は、アジャスタをつまんで回すことにより、打ち込み深さを調整できます。

試し打ちし、ステーブルが沈みすぎるときはアジャスタを浮く方(マーク  $\leftarrow$ )に回します。

ステーブルの頭が浮くときはアジャスタを沈む方(マーク  $\rightarrow$ )に回します。

(図 11、12)

アジャスタは 1 回カチッと回るごとに 0.5 mm 移動します。

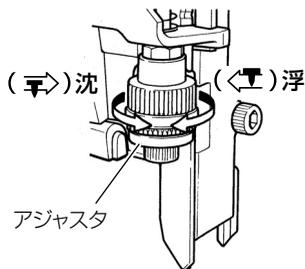


図 11

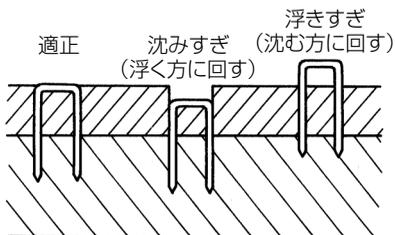


図 12

#### (2) 空気圧力、アジャスタ調整の目安

**注** •打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できますので、アジャスタの調整と併用してください。

ステーブルの打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると、本機の寿命を早めます。

- まず下表を目安にアジャスタ、使用空気圧力をセットします。
- 試し打ちして、ステーブルが沈みすぎる場合は、アジャスタを浮く方に調整します。
- ステーブルの頭が浮く場合は、空気圧力を高い方に調整します。

#### 使用空気圧力、アジャスタ位置の目安

使用ステーブル	使用空気圧力	アジャスタの位置
B 0832 F2	0.44 MPa {4.5 kgf/cm <sup>2</sup> }	最も沈む方向に回してセットする。
B 0838 F2		
B 0845 F2	0.54 MPa {5.5 kgf/cm <sup>2</sup> }	
B 0850 F2	0.59 MPa {6 kgf/cm <sup>2</sup> }	

### 3. 空打ち防止機構について……………

本機はステーブルがなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えております。ステーブルがなくなると、プッシュレバーが上がらず、引金を引いても打てなくなります。

- 注**
- ステーブルフィーダを後方に引くと、空打ち防止機構が無効になります。不要な空打ちは各部に悪影響を与えるので避けてください。
  - プッシュレバーを押し当てたままでの打ち込み作業では、空打ち防止機構は無効になるので注意してください。

### 4. エアダスタの使い方……………

#### 警告

- エアダスタバルブを使用するときは、必ず引金から指をはなしてください。
- 人体にノーズ（吹き出し口）を向けないでください。
- プッシュレバーを押し当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。

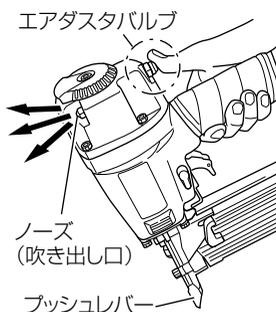


図 13

本機は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。

図 13 のように、親指でエアダスタバルブを押して使用してください。

- 注**
- エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。

### 5. 排気方向の変え方……………

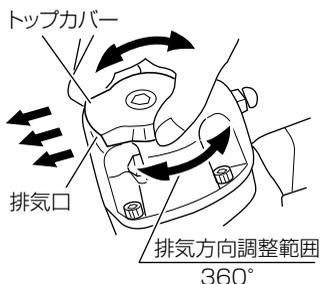


図 14

#### 警告

- 排気方向の調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

トップカバーを回して排気口の向きを360°の範囲で変えることができます。

(図 14)

## 6. プロテクタの用途……………

### ⚠警告

- プロテクタを着脱するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

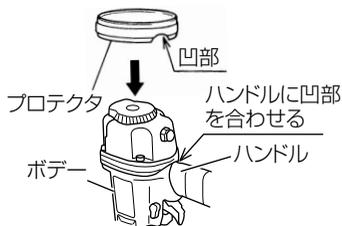


図 15

本機には、ボデーを横にしておいたときなどに、ボデーの塗装面や相手材を保護するゴム製のプロテクタを付属しています。

プロテクタはボデーのハンドルに凹部を合わせ、図 15 のように取付けます。

## 7. ステーブルの取扱い方……………

- 注**
- ステーブルの梱装箱、ステーブル単体いずれの場合も扱いをていねいに行ってください。落としますと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用するとステーブル送り不良により、空打ち、ステーブルづまりなどが発生するため、使用しないでください。
  - ステーブルは長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときはステーブル梱装箱などに入れてください。

## 保守・点検

### ⚠警告

- ステーブルづまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、ステーブルを全部抜き取ってください。

## 1. ステーブルづまりの直し方……………

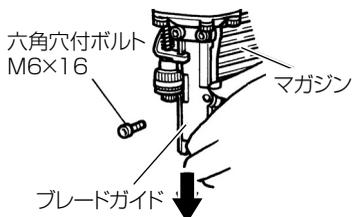


図 16

- 六角棒スパナ 5 mm (本体に取付けてあります) を使用して六角穴付ボルト M6 × 16 をはずし、ブレードガイドを下方へ引っ張ってはずします。(図 16)

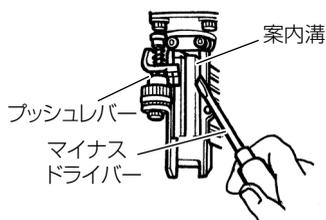


図 17

- 案内溝につまったステープル、破片、接着剤、木くずなどをマイナスドライバーなどで取除きます。(図 17)

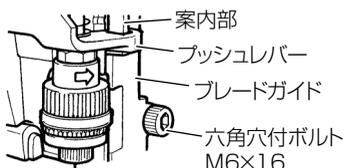


図 18

- 組立てのとき、プッシュレバーがブレードガイドの案内内部に入るように行います。(図 18)
- 組立て後、プッシュレバーがスムーズに上下動くことを確認してください。

**注** • ドライバブレードの先端が摩耗すると、ステープルづまりが発生しやすくなります。ステープルづまりが多発するようでしたら修理に出してください。

## 2. 各部取付けねじの点検……………

各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。ゆるんだままお使いになると、けがなど事故の原因になります。

## 3. ごみ・ほこりの防止……………

- ごみやほこりが内部に入らないよう、エアホース接続の際には、口元のごみをふき取ってください。
- 使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、本体内にごみが入るのを防いでください。

## 4. プッシュレバーの点検……………

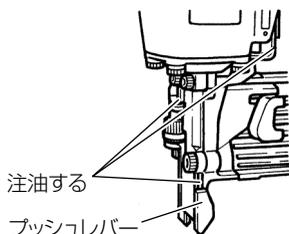


図 19

プッシュレバーがスムーズに摺動するか確認してください。(図 19)

プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

## 5. マガジンの点検……………

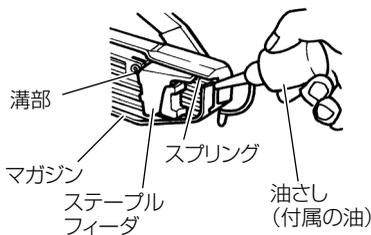


図 20

- マガジンをときどき掃除してください。中にたまったごみ、木くずなどを取除いてください。
- ステープルフィーダのスプリング部は、ときどき注油してください。ステープルフィーダを後方に引いて、マガジンの溝部にステープルフィーダを引っ掛けた状態で、後方からスプリング部に注油してください。(図 20)

## 6. 作業後の保管は……………

**注** • エアプラグにダストキャップをさし込むときは、本機をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

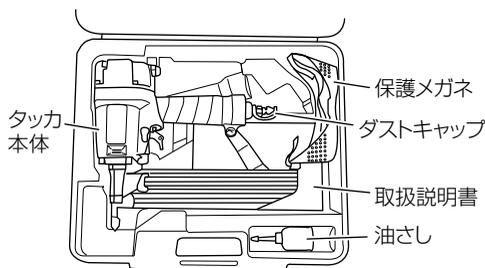


図 21

- 作業後は内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。ケースには図 21 のように入れてください。

- 長時間使用しない場合は、さび防止のため、エアホース取付口から給油し、ステープルフィーダを後方に引いて 2、3 回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。  
また、鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。  
油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を 22 ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。また、油の中にごみがあると給気穴をふさいだり摺動部を傷める原因となりますので、清浄な油をご使用ください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、朝の始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所においてください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

# エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力 (MPa) の関係により、下表を目安に最適な機種を選定してください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力	0.44～0.49 MPa {4.5～5 kgf/cm <sup>2</sup> }	0.49～0.59 MPa {5～6 kgf/cm <sup>2</sup> }	0.59～0.69 MPa {6～7 kgf/cm <sup>2</sup> }	0.69～0.78 MPa {7～8 kgf/cm <sup>2</sup> }
エアコンプレッサ				
PA 400B	85～70本	70～50本	50～40本	40～30本
PA 600B EC 6SA1	130～110本	110～80本	80～65本	65～50本
PA 800B	160～135本	135～100本	100～75本	75～60本
PA 1000S	180～155本	155～110本	110～85本	85～70本
PA 1500S	220～185本	185～140本	140～110本	110～90本

（上表は、弊社釘打機用ハンディコンプレッサ EC 6SA1、弊社エアパンチ PA 400B、PA 600B、PA 800B、PA 1000S、PA 1500S を使用した場合。）

たとえば、0.59 MPa {6 kgf/cm<sup>2</sup>} の圧力で 1 分間に 60 本の速さで打ち込む場合（1 秒間に 1 本）は、上の表から PA 600B、EC 6SA1 のエアコンプレッサが必要となることがわかります。

## 別売部品の使い方

### 警告

- 別売部品を取付けるときは、必ずエアホースをはずし、ステーブルを全部抜き取ってください。

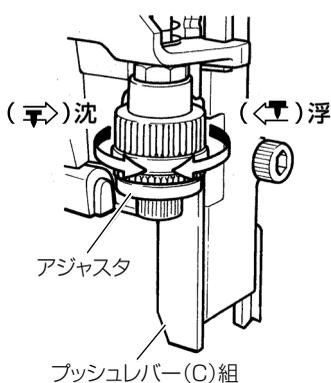


図 22

### ○プッシュレバー (C) 組の使い方……………

プッシュレバー (C) 組 (図 3-1) は、先端が平らになっているため、平打ちする場合に交換すると便利です。(図 22)

プッシュレバーの交換は、アジャスタを浮く方 (マーク <浮>) の方に回し続けて、プッシュレバーをはずします。

プッシュレバー (C) 組の取付けは、取りはずしたときと逆の手順で、アジャスタを沈む方 (マーク <洗>) に回していき、取付けます。

取付け後、プッシュレバー (C) 組がスムーズに摺動するか確認してください。

## 使用潤滑油

釘打機・タッカに使用する潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル		————— [別途販売しております]
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄 ISO VG32～68 (#90～#180)

**注** •潤滑油は必ず上表の油を使用してください。不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00 ~ 17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>